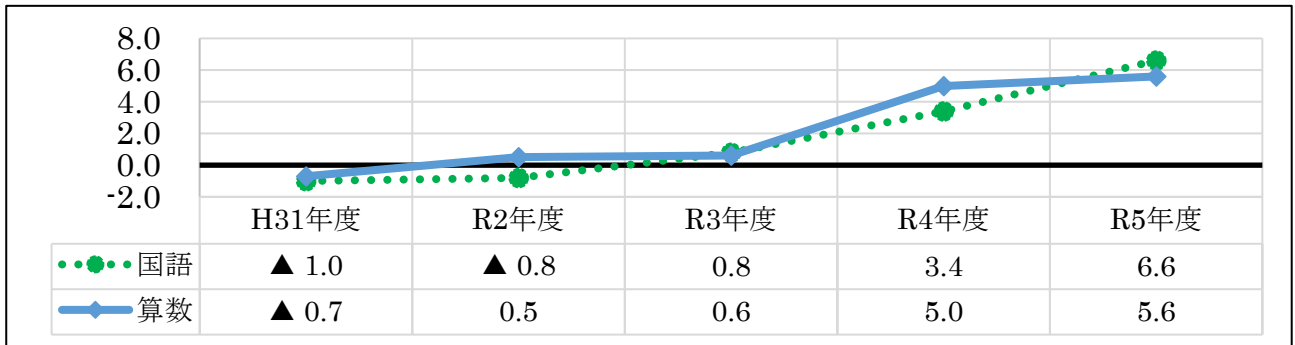


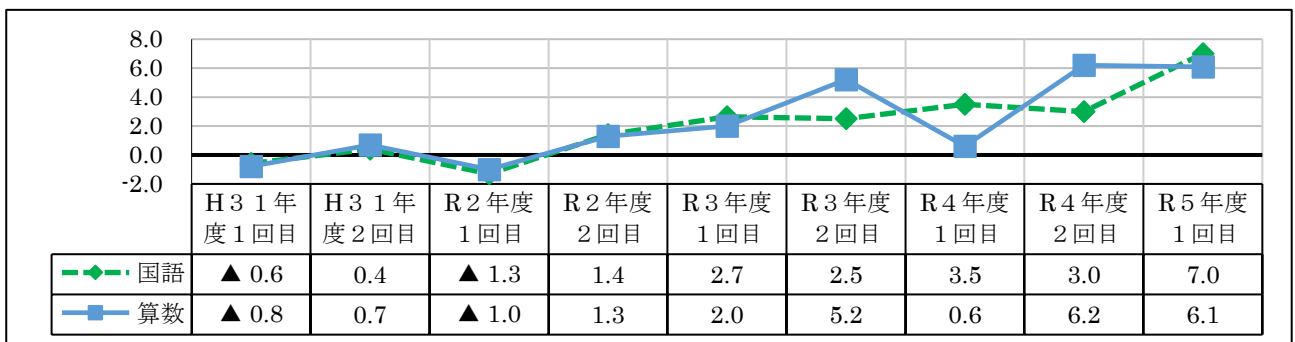
学力向上について

－ 令和5年度 第1回みえスタディ・チェックの結果について(再掲) －
みえスタディ・チェック 経年変化(数値は本市の平均正答率と県の平均正答率との差)

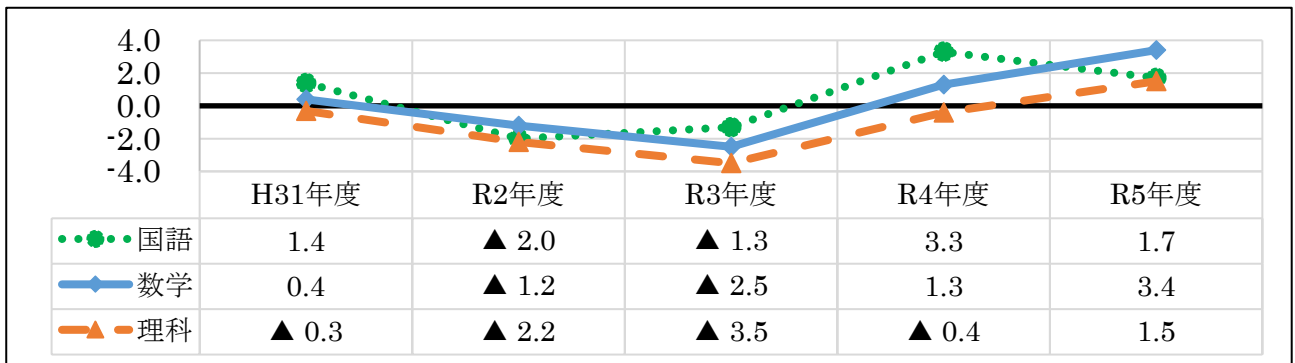
【小学校4年生】国語・算数(年1回実施)



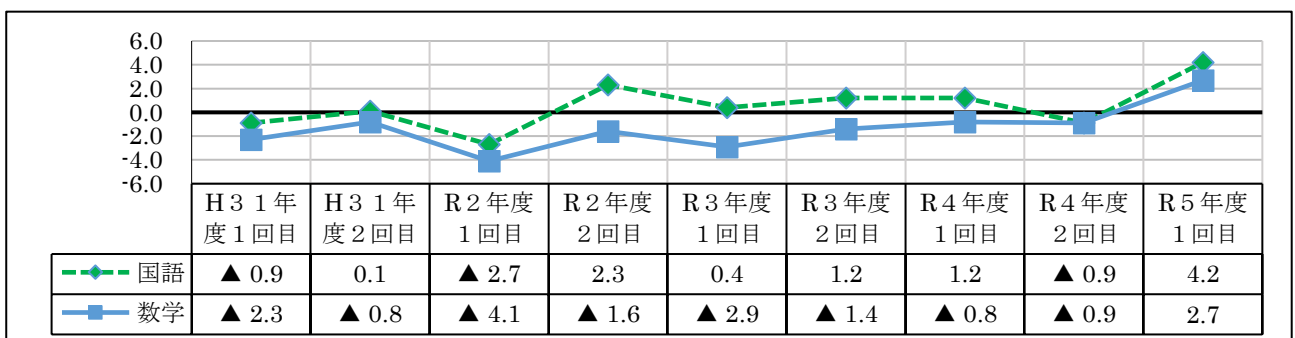
【小学校5年生】国語・算数(年2回実施)



【中学校1年生】国語・数学・理科(年1回実施)



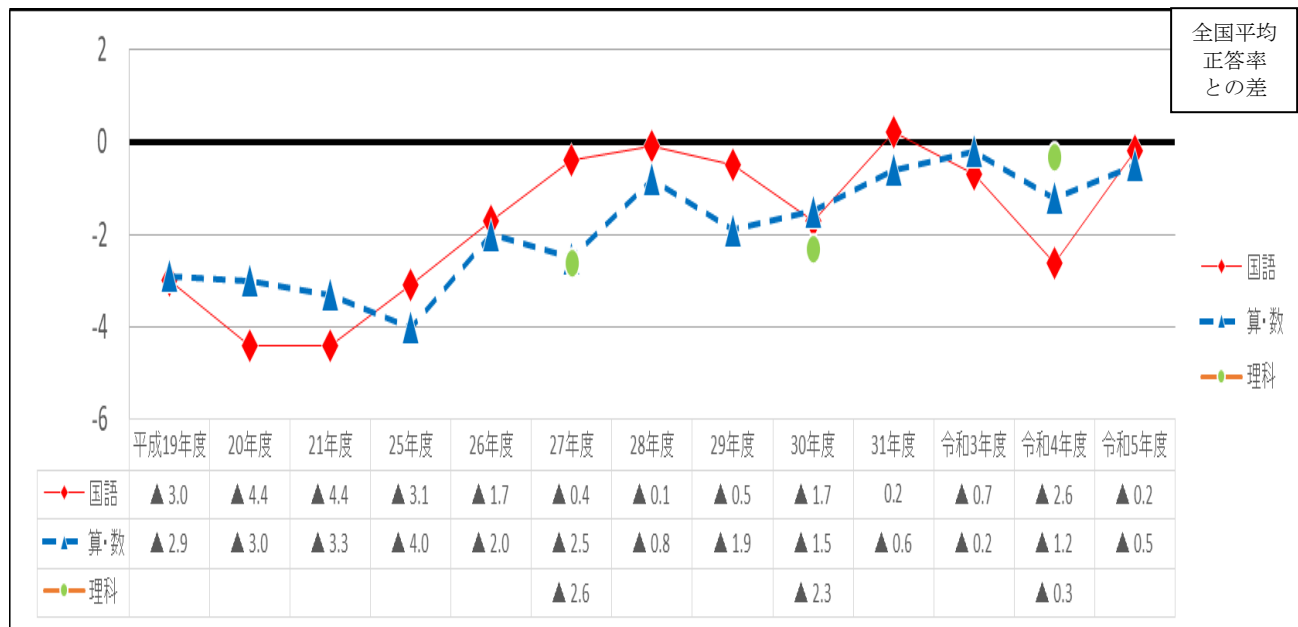
【中学校2年生】国語・数学(年2回実施)



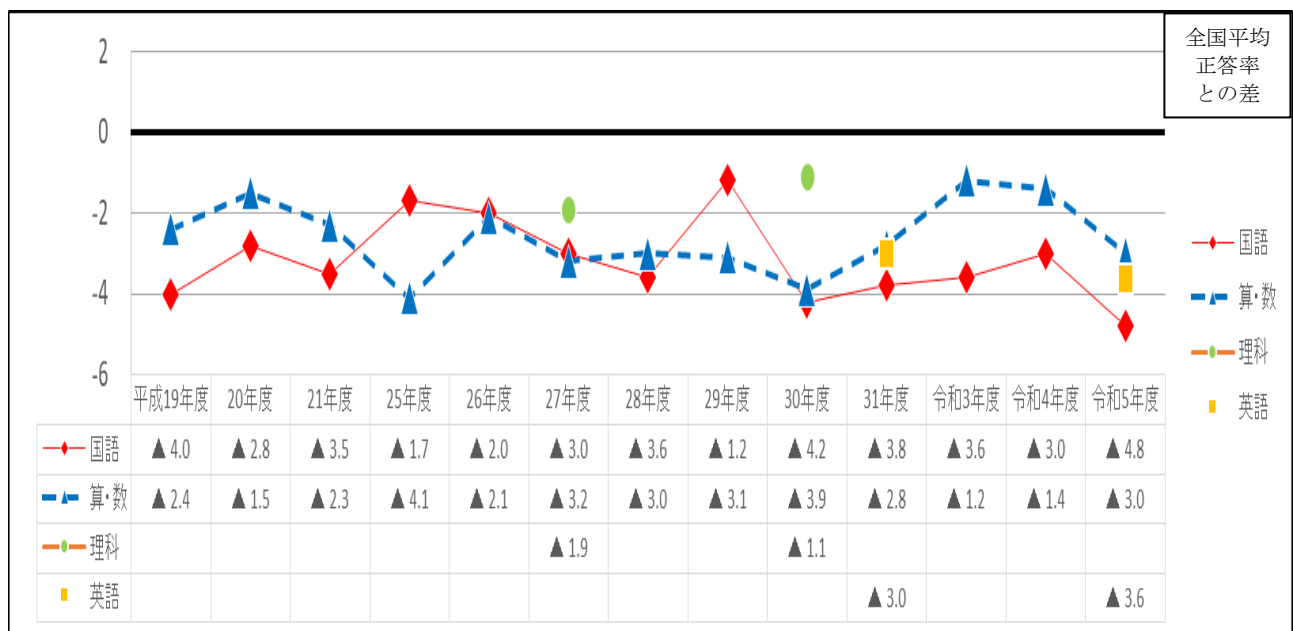
－ 令和 5 年度 全国学力・学習状況調査の結果について －

全国学力調査 経年変化(数値は全国の平均正答率との差)

【小学校6年生】国語・算数・(理科は H30, R4に実施)



【中学校3年生】国語・数学・英語 (理科は H30, R4, 英語は H31に実施)



※平成19年度から平成30年度まではB問題の結果を反映

※平成22年度, 24年度は抽出調査のため記載なし

※平成23年度は, 東日本大震災の影響により実施見送り

※令和2年度は, 新型コロナウイルス感染症の影響により実施見送り

1 全国学力・学習状況調査結果の成果と課題

- 小学校は、国語・算数いずれも全国平均をわずかに下回ったものの、前年度よりも改善し全国平均正答率との差が縮まった。
- 小学校国語科の「記述式」の問題は、昨年度から大きく改善され、全国平均正答率を上回った。
- 小学校算数科の「選択式」の問題では、全国平均正答率を上回った。
- 中学校は、平成30年度以降は、国語・数学ともに改善傾向にあったが、実施された全ての教科において全国平均正答率を3ポイント以上下回った。
- 中学校国語科は、調査開始以降、全国との差が最も広がった。
- 中学校英語科の「話すこと【やりとり】」については、全国平均正答率との差が5ポイント以上下回った。

2 今後の取組

- (1) 昨年度9月からは、小学校国語科の学力調査において、全国の平均正答率との差が5ポイント以上開いた小学校10校で、「読む・書くワークシート」に取り組み、今年度は3校が全国平均を上回り、7校が全国平均との差を縮め、改善傾向がみられた。今年度は、ワークシートの取組を全小中学校（小1～中2）に広げ、特に、小学校5・6年生及び中学校1・2年生は、全国の小中学校でも活用されている読売新聞社の「よむYOMUワークシート」を導入し、読解力向上を図り、次年度の成果につなげたい。
- (2) 児童生徒質問紙調査の結果より、主体的・対話的で深い学びの授業に取り組んだ児童生徒ほど、平均正答率が高い傾向がみられた。しかし、本市の調査結果によると、学校（先生）は授業改善の取組を積極的に行っていると認識しているのに対して、子どもたちの認識にはその取組が反映されていないということが分かった。そのため、昨年度から本市の共通取組である授業改善のための5つの視点を示した「授業力UP5★」の活用をより一層推進し、授業改善に取り組んでいく。
- (3) 子どもの読書活動は、国語の力を育成するためにも不可欠であるため、各校でこれまでの読書指導の見直しや環境整備を行い、読書時間や学校図書館の貸出冊数の増加など、読書活動の充実を図る。さらに、今年度は三重県の「本を読もう！読書活動推進事業」を受託し、学校図書館の充実や読書活動の活性化に資するよう、学校図書館アドバイザーを各校に派遣し、指導・助言等を行い、優良実践等について発信する。
- (4) 家庭学習について、児童生徒の実態に合わせ、家庭学習の量だけでなく、内容や点検方法についても見直しを行う。加えて、端末を活用した家庭学習の内容を充実させ、授業内容と関係する効果的な家庭学習の取組を推進する。